



平和な国、フェアな社会、人にも生き物にも温かい東村山を次世代に手渡すため、これからも全力を尽くします！

1票のチカラを信じて20年。お陰様で無所属を買いた活動を継続しています。

「人」と「信頼」

2003年の初当選から今日まで、正真正銘の無所属を貫き、「子ども」「障害者」「グリーンインフラ」「自治」といったテーマを柱に議会活動を続けて来られたのは、政党や大きな団体ではなく、お一人おひとりの1票のチカラだけを信じて、ひとつひとつの課題と向き合い、当事者の声をとことん聴き、外からもたくさん学んできたからだと思っています。ありがとうございます。

2期目からは、旧態依然の議会を「もっと働き、市民に信頼される議会」に変えなければ未来は無いと考え、全国の先駆的な取組みに学び、志を共有できる議員たちと力を合わせて議会改革を進めてきました。

政党・会派の別なく、全国で地方自治の前進、議会改革に奔走する議員、自治体職員、研究者と繋がり、切磋琢磨できていることが私の原動力であり、財産です。

「子ども」と「環境」

子どもや若者を大人になる中途の存在として扱ってきた日本社会が、今年4月1日の「こども基本法」施行を機に大きく変わろうとしています。「子どもは生まれながらにして大人と同じ主権者。その声を真剣に聴いて政策に反映を」と議会で投げ掛け続けて20年。今、東村山市もようやく具体的な仕組みづくりに動き出しました。

学生時代から20年余り、社会教育や保育の分野で子どもや若者たちと共に活動してきた実感と、全国のキーパーソンとの繋がりを十分に生かして、このまちの未来を拓いていくために、これからも全力を尽くします！

また東村山の貴重な財産である里山の緑、動植物が息づく環境(グリーンインフラ)を次の世代に手渡していくことが、政治に携わる者の大きな責任だと考えています。市民グループや自治会が実施している北川や旧前川緑道の整備、たっちゃん池のかいぼり等に自ら参加を続け、声を聴き、議会での質問や提案に繋げて来ました。

東村山市議会議員候補

佐藤まさたか

【期日前投票】市役所北庁舎 4月17日(月)～22日(土) 8:30～20:00 / サンパルネ 4月20日(木)～22日(土) 9:00～20:00

応援します!
東村山市議会と言えば **まさたか**さん!!

佐藤まさたかさんは政策型政治の
実現を目指す同志です。

早稲田大学名誉教授 / 早稲田大学マニフェスト研究所顧問 / 元三重県知事 北川正恭さん



議会改革をけん引し続け、
ますますの発展のために

熊本県山鹿市議会議員 服部香代さん



みなさんで佐藤まさたかを
使いまくりましょう!

兵庫県西脇市議会議員 林晴信さん



今こそ、東村山に「まさたか力」を

沖縄県那覇市議会議員 前泊美紀さん



全国の改革派議員に知れ渡る
東村山市議会改革の旗頭

福島県津若松市議会元議長 目黒章三郎さん



政策本位の議員活動を
実践している数少ない議員

岐阜県可児市議会元議長 川上文浩さん



頼もしい「志」をもった真っ当な政治家

埼玉県戸田市議会前議長 斎藤直子さん



わがまちを良くするためには、
まず議会から

愛知県知立市議会前議長 田中健さん



「こどもまんなか」の市政に向けて

小河光治さん 子どもの貧困対策センターあすのぼ代表理事



完全無所属だからこそできる仕事

小金井市長 白井とおるさん



地域のため、そこに住む
人のための政治

岩手県陸前高田市議会議員 福田利喜さん



子どもも市民として向き合う
あたたかい眼差し

子どもの権利条約ネットワーク事務局長 / 浦和大学社会学部准教授 林大介さん



熱いメッセージ
全文はまさたかHPで!



市議会のレベルが決める 市民の幸福度。

佐藤まさたか 市議6期目に向けての決意

を活用してグループ意見交換も復活。11月には久しぶりに会場開催が叶いましたが、オンライン継続を望む多くの声に応じて併用で行いました。緊急避難的に始めたオンライン開催ですが、忙しい現役世代、子育てや介護で会場へ出向けない、足を運ぶほどではないが気にはなっていた等、従来とは異なる層の参加に繋がりました。

議会報告会の開始当初、私たち議員は答える側に回ると途端に力不足が顕在化し、市長部局に日頃エラそうに求めている「説明責任」を果たすことが容易ではないことを痛感しました。(中略) 議会報告会の継続は、市民の皆さんの地方自治への理解促進に繋がりが、私たち議員のコミュニケーション力を鍛えるためにも不可欠な場です。

全国初の議会基本条例が北海道栗山町議会で誕生してから17年、元三重県知事の北川正恭早稲田大学名誉教授が「お願いだけの選挙から、有権者と約束を交わす選挙へ」とマニフェスト選挙を提唱して20年。この間、議会間での善政競争が広がり、機能強化を果たした地方議会は、更なる高みへ歩みを進めています。(中略)

何のためか立ち返りながら

4年ごとに顔ぶれが替わり、多様な考え方が存在する地方議会で、「なぜ議会改革を継続することが重要なのか」というミッションを共有し、進化させる難しさを日々痛感しています。

この数年間は、成功体験を共有することが重要と考え、議員個人よりも議会として成果を上げることに重きを置

いてきました。所属する政策総務委員会では「投票率向上策」を調査事項に定め、オンライン市民アンケートの実施、大学教授や先進的な議会をオンラインで結んでの勉強会、選挙管理委員会や教育委員会との意見交換も行い、具体的な政策提言に繋がりました。

また、「政策研究会」を超党派で立ち上げ、国立ハンセン病療養所「多磨全生園」の将来構想に議会はどう関わるべきかをテーマに関係者と対話を続けて来ました。

25名が全市民を代表する責任

多くの議会が選挙を迎えるこの春、東村山市でも公共施設の統廃合や様々な税負担増など、厳しい選択が待ち受けている中、甘い話ばかりをしている状況ではありません。15万市民に選ばれたわずか25名の市議会議員は、市の政策について代表して議論し、決定することが最大の使命です。

「チーム議会」として、公正を重んじ、考え方の違う者同士が互いに敬意を持って対話と討議を重ね、合意形成を図り、住民にとって少しでもベターな解を導き出す。そして出した結論には責任を持つ。

市議会のレベルが市民の幸福を左右する時代になっています。私はどうしても市民の皆さんに「信頼される議会」をつくりたいのです。

頒布責任者:伊藤大輔 立川市砂川町8-18-25
印刷者:スリーエス 東村山市本町3-8-10

地方自治専門紙「自治日報」
2022年12月5日号「議会コーナー」掲載の拙稿「議会同士の切磋琢磨をエンジンに」に加筆修正して掲載したものです。
このビラはウェブサイト掲載用です。紙に印刷して頒布することはできませんのでご注意ください。(公職選挙法 142 条の規定違反となります)



2023年1月、コロナで途絶えていた東村山市議会への視察が中京と関西の議会からありました。「議会報告会」や「政策提案」をテーマに、これまで全国から50以上の議会をお迎えしてきました。毎回複数の議員が説明にあたりますが、醍醐味は後半の意見交換にあります。私たちより活発な議会も少なくなく、視察受入れは地元居ながらにして学べるありがたい機会であり、議会同士の貴重な外交の場です。

議会報告会を継続する意味

東村山市議会が2年半の議論と作業の上、議会基本条例を施行したのは2014年4月。「市民に開かれた議会」を掲げ、傍聴時の住所・氏名記入廃止、傍聴席での録音・録画の自由化、請願者・陳情者の陳述の制度化等を行うと共に、3ヵ月ごとの「議会報告会」をスタートさせ、様々な手法やテーマでトライ&エラーを重ねて継続してきました。

2020年の5月にコロナで一度止まりましたが、広報広聴委員間で「休まないことが市民との約束」と確認し、手持ち機材でYouTube録画配信に挑戦して8月に再開。翌年2月からはzoom

さとう・まさたか 1963(昭和38)年日野市生まれ/慶應義塾大学経済学部卒/社会教育、野外教育、保育、学童クラブ等、子どもの現場を中心に勤務後、政党や団体に属さない完全な無所属として5期目の東村山市議会議員/現・政策総務委員会委員、広報広聴委員会副委員長/全国の優れた政策実践に対して贈られる「マニフェスト大賞」を、4年間で3回受賞